

NPO法人ジョイフル 網地島（石巻市） 立正佼成会一食平和基金を活用し島おこしの先進地を訪問

7月12日(火)、同団体2名が兵庫県沼(ぬ)島(しま)を訪問、島おこしの取組を学びました。沼島は兵庫県最南端の島。高齢化・少子化による公共サービスの縮小など厳しい課題が存在しています。そのような状況の中で、地域資源を活用した観光事業を県や市の協力も得ながら実践しています。

具体的には、住民ボランティアによる島の案内、地域おこし協力隊の導入、漁船による周遊クルーズなど。『「ないもの」ではなく「できること」から考える。』『心合う仲間と話し合い、灯(ともしび)を掲げて、事業を重ねていく。』など、和やかな雰囲気の中でそれぞれの島の課題や想いを語り合いました。

(参加者の感想)
沼島は島の環境・住民の状況など網地島と共通の部分がある中で、先進的な活動を行っているということで視察させていただき、様々な学びを得ることができました。今後も交流を継続していきたいです。今後は関係機関の協力も得ながら網地島の在り方を模索していきたいと思っています。



7/12 沼島視察訪問時の様子

法政大フィールドスタディーで話題提供

8月9日(火)、仙台市情報・産業プラザにて法政大学人間環境学部の学生23名に対し、当センターの石塚・中沢がレクチャーを行いました。今回は3泊4日で被災地フィールドスタディーを行う同大学人間環境学部の西城戸教授からの依頼を受け、初日冒頭のプログラム

として宮城の被災・復興の状況について講話を行いました。昨年度から3県連携復興センター協働で作成している「市民でつくる復興ロードマップ」をベースとして、今被災地で起きていることや、今後の展望を伝えました。学生からは「住民の復興感」や「復興ロードマップの活用

方法」についての質問があり、活発な意見交換がなされました。



8/9 講話に熱心に耳を傾ける参加者

福島県県外避難者相談センター 宮城拠点を開設しました

福島県からの避難者は、全国で4万人を越え、そのうち宮城県への避難者の方は2500名に上ります。来年3月に現在の支援策が終了するのに伴い、福島県へ戻るまたは、避難先へ移住する等といった選択をサポートするため、全国25カ所で開催センターが開設されています。宮城拠点は6月28日(火)に開設されました。現時点では、4月以降の住まいに関する相談がもつとも多

く、情報提供を行う他、専門性の高い相談内容に関しては専門家へつなぐ等の対応を行っています。また、今後は、県外避難者同士、または支援団体との交流会や福島県から職員を招いて情報交換を兼ねた説明会も開催する予定です。第一弾は、10月29日(土)、仙台市内での開催を予定しております。(※会場など詳細は決まり次第、当センターのHP上にて告知予定。)

東京学芸大学 N類生涯学習専攻3年鈴木希です。私は宮城県出身であり、被災地の現状や復興状況について分からないことが多く、大学在学中にそれらについて学びたいと思っていました。実習中はいくつ



インターン生
鈴木希さん

8月にインターンとしてれんぷくの活動に参加しました

かの被災地を訪問し、ワークショップやヒアリング調査に同行しました。地域の方々のお話を聞き、復興状況、課題を知るとともに、中間支援組織が被災地に働きかけることの重要性を学びました。

「市民がつくる復興ロードマップ」プロジェクトでは、地域の皆さんと、地域ごとの復興の見通しを立てていく有る取組を進めています。ご興味のある方は、ぜひお声掛けください。宜しくお願います!

職員紹介

石塚直樹

Q①生年月日と出身地を教えてください。

A 80年5月30日、新潟県生まれです。

Q②特技は何ですか？

A 食べること、料理が好きです。今年は梅干しと味噌を仕込みました。

Q③自慢できることは？

A 新潟県の佐渡島生まれ・育ちなことです。

Q④担当している業務は？

A 事業開発チームにて、主に広域コーディネートやアドボカシー、新規事業開発等を担当しています。

「市民がつくる復興ロードマップ」プロジェクトでは、地域の皆さんと、地域ごとの復興の見通しを立てていく有る取組を進めています。ご興味のある方は、ぜひお声掛けください。宜しくお願います!

★お知らせ★
皆様からのご相談をお寄せ下さい。団体、行政、企業へのつなぎ役、講師紹介等、お待ちしております。
✉ info@renpuku.org
お電話、またはPからお問合せください。